

能力記述文と尺度の検証方法に関するガイドライン策定に向けた検討事項（案）

1. 現状と課題

- 令和元年度に「日本語教育の参照枠」一次報告(案)が示された。今後、様々な機関等で領域別の能力記述(以下、Can-do という。)が行われることが予想される。
- 作成される能力記述が CEFR can-do のレベル尺度に照らして一定の水準を保つために、検証方法に関するガイドラインを示す必要がある。
- 国内の英語試験における先行事例としては、英検、GTEC があり、CEFR(2001)及び Relating Language Examinations to the 'Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment' (CEFR). A Manual(以下、マニュアルという。)を参照している。

2. CEFR (2001) 及びマニュアルで示されている検証の手法

I 直感的手法 :経験則による検証	①専門家(エキスパート) ②委員会 ③経験主義
II 質的調査法 :小規模ワークショップ による検証	④基本概念:定式表現(スケール設計上の重要概念の形成) ⑤基本概念:言語行動(重要概念とパフォーマンスの照合) ⑥基本特性(主要特性) ⑦二元決定法(Yes/No によるレベル決定過程の作成) ⑧比較判定法(ペア比較による判断) ⑨仕分け作業(並べ替えタスク)
III 量的調査法 :統計的手法を 用いた検証	⑩弁別分析(判別分析) ⑪多元尺度(多次元尺度法) ⑫項目応答理論または「潜在特性」分析

3. ガイドライン策定にあたっての検討事項

- ガイドラインには以下の項目について示す必要がある。
 - (1) 検証の目的と必要性
 - (2) 検証方法と手順
 - ・ I 直感的手法
 - ・ II 質的調査法
 - ・ III 量的調査法
 - (3) 収集するデータの数等に関すること
 - (4) 参考文献

以上